

# 家族で働く幸せ



## 後継者農業女子

PROFILE

ごかん ゆきこ  
後閑 佑希子さん

梨農家 就農歴6年（高崎市）

26歳。群馬県立農林大学校農業経営学課花き・果樹コース卒。祖父・母と親子3代で梨作りに励んでいる。

## 家族で農業の喜びを共有 力をあわせて美味しい梨を作っています

### 祖父が大事に育てた梨畑を守りたい

梨農家の3姉妹の次女として生まれた佑希子さん。物心ついた頃から祖父・勇さんや母・喜久画さんが梨園で働く姿を間近に見て育ちました。梨畑の中に停めてあるオープンカー仕様の軽トラックの上で、コンテナを使ってテーブルやベッドを作り、姉妹で宿題をしたり遊んだりした思い出が残っているそうです。

そんな佑希さんが梨農家の後継者となることを決意したのは、進路選択を控えた高校生の時でした。「祖父や母から『継いで欲しい』と言われたことはありませんでしたが、祖父の代から大事にしてきた梨園が途絶えるのは寂しいなと思ったんです。姉と妹は全く農業に興味がなかったので、私しかないかなって」と佑希さんは振り返ります。後継者推薦で群馬県立農林大学校に進学。卒業後、す

ぐに実家での手伝いを始めました。

高崎市榛名地区は、群馬県下有数の梨の産地。しかし近年は後継者不足から消えて行く梨園も少なくありません。

「後継者は諦めかけていたお祖父ちゃんは、佑希子が継いでくれることになって大喜びでした。人手が3人増えて本当に助かっています」と母・喜久画さんは嬉しそうに話します。

勇さんと喜久画さんの指示を受けながら仕事をこなす佑希子さんですが、花が咲く直前に不要な蕾を取り除く「摘蕾（てきらい）」は、佑希さんが得意とする作業の一つ。「余計なことを考えないで、ひたすら集中できる仕事が好きなんです。細かな作業なので祖父は苦手なようですが」と笑います。